

MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

本学における国際交流の
取り組みを紹介します

Vol.40
2019.8



「三重を知ろう」(6/26知事特別講義)(5ページ)



海外短期研修生の受け入れ(1ページ)

主な内容

本学における国際交流の取り組み	1・2
連携協力協定病院（独立行政法人国立病院機構 三重病院）	3
後援会の活動	4
特別講義「三重を知ろう」	5
故 前原澄子元学長を偲んで	6



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

大学マスコット
キャラクター
「みかんちゃん」

本学における国際交流の取り組み

本学は、タイ王国マヒドン大学、英国スコットランドグラスゴー大学と国際交流にかかる協定を締結し、短期研修生を受け入れるとともに、本学からも学生を派遣しています。

さらに、7月には、5年ぶりにマヒドン大学医学部看護学科から教員を招聘し、シンポジウムを開催しました。

今号では、本学の国際交流の取り組みについて紹介します。

海外の大学との協定

	協定締結日	協定の名称	実施事業	本学の国際看護実習科目
タイ王国マヒドン大学	平成13年10月9日	国際交流協定	・学生の相互派遣 ・教員招聘事業	国際看護実習Ⅰ
英国スコットランドグラスゴー大学	平成27年11月20日	交換留学協定	・学生の相互派遣	国際看護実習Ⅱ



海外短期研修生の受け入れ

6月3日から6月15日まで、マヒドン大学から3名、グラスゴー大学から2名の短期研修生を受け入れました。

5名の研修生は、学内での講義や県内の医療機関等6施設の見学を通じて、日本の看護と保健医療を学びました。また、本学を交えた3大学合同でプレゼンテーションを行い、それぞれの国の医療・看護の現状や大学での学びについて比較しながら理解を深めました。

研修期間中は、本学サークル主催の歓迎会や日本文化体験なども行われ、互いの文化を尊重し積極的にコミュニケーションを図ろうとする中で、学生同士の交流も深化したようでした。

浴衣と茶道で日本文化を体験



修了式を終えた研修生



マヒドン大学教員招聘特別講演会

7月13日、マヒドン大学医学部看護学科から教員2名を招聘し、「マヒドン大学教員招聘特別講演会」を開催しました。

講演では、「小児クリティカルケアにおける看護職の役割」や「タイ王国のHIV陽性者におけるメタボリックシンドロームの有病率と予測因子」と題し、タイ王国の保健医療の現状や臨床現場での体験談などを盛り込みながらお話いただきました。

参加者からは、「海外の先生の話聞く機会があまりないので、大変貴重な機会だった」「講演の内容を今後に活かしていきたい」などの声が聞かれました。



海外の取り組みを知る場となったマヒドン大学教員による講演



本学学生の派遣(国際看護実習)

本学では、平成21年度からタイ王国 マヒドン大学、平成28年度から英国スコットランド グラスゴー大学へ学生を派遣し、およそ2週間の短期研修(国際看護実習)を実施しています。

派遣される学生は、事前に派遣国の看護・医療の現状、文化や生活習慣について学習するほか、現地での講義に備えて英単語やリスニング、日常英会話も学びます。

派遣先では、事前学習した知識を基に大学での講義や施設見学に臨みます。大学で講義に加え医療機関で現地の看護の実際を見学することにより、学びを深めます。一方で、現地の学生や教職員を前に、日本の看護や保健医療、文化についてプレゼンテーションも行います。

受け入れ先で催される歓迎交流会では、書道や折り紙など日本の文化を現地の学生に教える文化交流の機会もあって、学生同士の交流も盛んです。



研修にてプレゼンテーション(グラスゴー大学)



修了式直後のひとこま(マヒドン大学)

▶[マヒドン大学での短期研修(国際看護実習Ⅰ)]

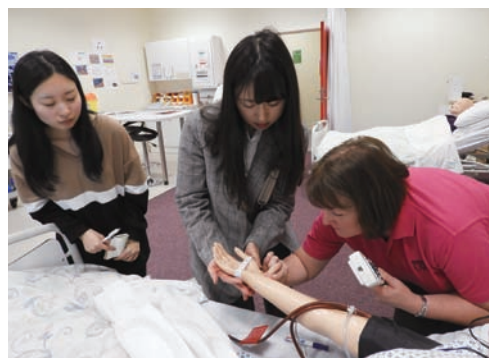
本学3年生が対象の国際看護実習Ⅰでは、途上国の保健医療問題を学ぶ一例として、タイの健康問題と保健医療システムの実状について学ぶとともに、看護の違いや共通点について文化の違いと合わせて考えます。



施設見学先で(マヒドン大学)

▶[グラスゴー大学での短期研修(国際看護実習Ⅱ)]

本学4年生が対象の国際看護実習Ⅱでは、イギリスの保健医療制度や健康課題についての講義を受け、グループワークやディスカッションにも参加し、現地の学生と積極的に意見交換を行い、学びを深めます。



施設見学先で(グラスゴー大学)



本学の教育目標の1つに「国際・異文化理解とコミュニケーションの能力を身に付け、国際的視野をもって活動できる能力を養います。」と掲げ、さらに第二次中期目標では「教育研究水準向上のため、海外の大学や研究機関と共同研究等の学術交流を行うなど、大学の国際化を推進する」と掲げています。臨床現場でも国際化が進む中、目標の実現に向け取り組みます。

連携協力協定病院

連携協力協定病院のご紹介 ～独立行政法人国立病院機構 三重病院～

人にやさしい、ぬくもりある 看護を目指します

三重病院は、小さな子どもから高齢者までを支える総合成育医療機関の役割を担っています。小児医療は、三重県の小児救急医療拠点病院として、24時間の二次救急医療を行うと共に、急性期から慢性期まで多くの疾患に対する医療・看護を提供しています。また、重症心身障害、神経・筋難病の専門医療を担い、患者さんやご家族が安心して療養できるよう支援しています。成人の医療として、内科(呼吸器・糖尿病)、整形外科の診療にも携わっています。

看護部は教育理念として、「かけがえのない生命(いのち)の重さを知り、豊かな感性と倫理観を備え、自律した信頼される質の高い看護・介護が提供できる看護職員を育成します」をテーマに掲げています。そのめざす看護師となるために、国立病院機構に共通

の看護師能力開発プログラム Ver.2を活用しながら、三重病院のキャリアラダープログラムを作成し、看護師としての成長を支援・育成してい

ます。患者さんご家族に真摯に向き合い、心に寄り添いながら、確かな知識と技術に裏打ちされた質の高い看護を提供し続けたいと努めています。

三重県立看護大学とは連携協力協定病院として、教育・研究・職員の育成等の連携協力を図っています。小児看護学の臨地実習の場として活用していただき、今後も連携協力により質の高い看護職者の教育と育成に取り組んでいきたいと思ひます。

(看護部長 漆畑 久子)



三重病院

病院情報

独立行政法人国立病院機構 三重病院〔昭和14年5月開設〕

- ❖ 病床数：260床（一般病床258床、感染症病床2床）
- ❖ 診療科等：内科(呼吸器、糖尿病・内分泌)、精神科(小児心療科)、脳神経内科、アレルギー科、小児科、整形外科、小児外科、皮膚科(入院患者対応)、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科・口腔外科、麻酔科、臨床検査科、薬剤科、その他の部門
- ❖ 職員数：283人(うち看護師178人)(令和元年6月1日現在)



確かな知識と技術、質の高い看護を提供し続けます

連携協力協定病院一覧

県内11病院

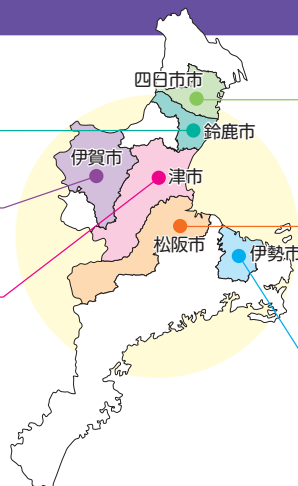
● 三重県厚生農業協同組合連合会
鈴鹿中央総合病院

● 社会医療法人畿内会 岡波総合病院

● 三重県立こころの医療センター

● 独立行政法人国立病院機構 三重病院

● 三重県立一志病院



● 地方独立行政法人
三重県立総合医療センター

● 松阪市民病院

● 社会福祉法人恩賜財団
済生会松阪総合病院

● 三重県厚生農業協同組合連合会
松阪中央総合病院

● 日本赤十字社 伊勢赤十字病院

● 市立伊勢総合病院

(令和元年8月末日現在)

6月8日(土)、本学学部生の保護者等で構成する三重県立看護大学後援会の総会を開催しました。

総会では、今年度事業計画、収支予算、役員の選任等を審議・決定しました。

新規事業として、より多くの学生が保健師国家試験に合格できるよう、模試回数増加にかかる受験料助成を決定しました。また、総会終了後、本学理事から昨年度卒業生の就職など大学について説明しました。

三重県立看護大学後援会について

後援会は、入学時にいただく会費を原資に、年2回の理事会と年1回の定例総会などで活動内容等を審議のうえ、学生の活動や生活を支援する、本学に不可欠な団体です。



後援会総会(6月8日)

目的: 学生の福利厚生充実、課外活動の助成に努め、大学の発展と会員相互の連絡・親睦を図ること

会員: 正会員 本学に在学する保護者または保証人
賛助会員 本学の趣旨に賛同する者

会員数: 408人(令和元年8月末日現在)

後援会の主な事業内容

- 学生自治会、クラブ・サークル活動への助成
- 大学祭(夢緑祭)への助成
- ボランティア活動への助成
- 夜間(午後9時台)の帰宅バス運行委託
- 交通不便地等における実習時のタクシー代助成
- 卒業アルバムの制作及び卒業記念品の贈与
- 謝恩会への助成
- 同窓会への助成
- 学生の修学のための基金(裏表紙参照)への助成
- (新)保健師国家試験対策模試への一部助成



卒業アルバムの制作



大学祭(夢緑祭)への助成

全ての学生たちが、楽しく有意義な時間を過ごせるために

三重県立看護大学後援会 会長
阪 大輔



会員の皆様におかれましては後援会へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成から令和になる記念すべき節目の年に、三重県立看護大学後援会会長の職を預かりました阪大輔と申します。微力ながら大学の発展のため、皆様と共に活動して参りたいと存じます。

本会では、皆様からお預かりしました会費を有効に活用させていただき、全ての学生たちが、三重県立看護大学で楽しく有意義な時間を過ごせるよう大学

と協力して活動して参ります。

会員の皆様におかれましては、本会へのご理解を深めていただき、ご支援ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和元年度役員一覧

役 職	氏 名			
会 長	阪	大輔		
副会長	田中	好昭	眞柄	登紀子
理 事	酒井	立子	森本	修
	小宮	千歳	坂本	静香
	近藤	真紀	橋本	直美
	日置	由美		
監 事	上村	雅美	楠	裕子
顧 問	菱沼	典子(理事長兼学長)		
	笠谷	昇(副理事長兼事務局長)		

特別講義「三重を知ろう」／大学の出来事

特別講義「三重を知ろう」

特別講義「三重を知ろう」は、県内地域の人々の暮らしと背景にある文化を理解して、地域の人々の健康な暮らしをめざす看護職者になってもらおうと、1年生を対象に昨年度から実施しています。

5月22日は、高田本山専修寺及び寺内町でフィールドワークが行われました。

国宝建造物となった同寺の御影堂・如来堂を見学し、同寺の歴史や概要について講義を受けた後、8班に分かれて同寺周辺に広がる寺内町界隈を一身田寺内町ほっとガイド会メンバーと一緒に歩き、同寺とともに形成された町について学びました。



一身田寺内町ほっとガイド会メンバーの話を耳を傾ける学生たち(5月22日)

6月26日は、鈴木三重県知事をお招きし、「三重の文化と魅力～万葉のふるさと三重」と題して、三重県の文化・歴史、我が国や三重県を取り巻く医療・福祉の状況について特別講義をいただきました。

「三重を知ろう」受講後の声として、2日間を通して、「三重県に住んでいても、三重県を知らなかった」という意見が複数寄せられました。三重県について、そしてめざす看護職のイメージに広がりが増したのではないのでしょうか。



鈴木英敬三重県知事をお招きした特別講義(6月26日)

大学の出来事

ゆめみどり 夢緑祭／ゆびた祭り

6月8日(土)

7月3日(水)

6月8日、本学の大学祭である「夢緑祭」が開かれました。キャンパスは、終日、ダンスやよさこい、ちびっこ広場、模擬店などのイベントでにぎわいました。

また、7月3日は、本学の夏祭り「ゆびた祭り」が行われました。ストラックアウトやボーリングなどのイベントのほか、焼きそば、たこ焼きなどの屋台も並び、集まった地域の子どもたちは大喜びでした。

学生主体のこうした催しも、回数を重ねた今日では地域と本学をつなぐ大切な交流の場となっています。



夢緑祭(6月8日)



ゆびた祭り(7月3日)

スポーツにケガはつきものか —「見える化」活動の成果報告—

6月29日、地域交流センター第1回公開講座が開催されました。

講座では、名古屋大学大学院教育発達科学研究科から内田良准教授をお招きし、「スポーツにケガはつきものか—『見える化』活動の成果報告—」をテーマに、組み体操や柔道、部活動など学校でのスポーツの中で、子どもや教師が遭遇する重大事故の発生メカニズムや事故防止策について、具体例や動画を交えてご報告をいただきました。

200人を超える参加者からは、「外の視点から見てみると、これまで当たり前だったり、美談と語られたりする事例の中にも、リスクが見えてくることがある」「繰り返さないためにも、広い視野で事故に向き合い、事故から学ぶことが重要だ」「情熱よりも安全が重要だ、という意識が広がってほしい」といった感想が寄せられました。



故前原澄子元学長を偲んで

5月19日、本学の初代学長である前原澄子元学長が逝去されました。享年82歳でした。

■ 略 歴

東京大学医学部衛生看護学科卒。東京大学医学部助手、東芝中央病院（現在の東京品川病院）総婦長、千葉大学看護学部教授、同大看護学部長などを経て、平成9年4月から三重県立看護大学の初代学長に就任し、以来8年間、本学学長を務められました。

また、平成17年の京都橘大学看護学部開設時より、初代看護学部長を務められました。これらの功績により、平成24年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。

■ 足 跡

開学当初、「日本一の看護大学に」のスローガンの下、県立らしく地域に貢献できる大学づくりに力を注ぎました。地域の看護教育・研究の拠点である地域交流研究センター（現 地域交流センター）は、元学長の下で活動の礎が築かれました。

また、平成13年4月の本学大学院看護学研究科の開設のほか、同年9月のタイ王国 マヒドン大学との国際交流協定の締結などに尽力されました。

一方、平成11年に設立された日本母性看護学会の会長として同年に同学会の第1回学術集会を、平成13年には、日本看護科学学会国際看護学術集会をそれぞれ本学で開催するなど、看護学の発展にも力を尽くされました。

前原元学長は、開学間もない本学に集った教職員を束ね、県下唯一の公立4年制看護大学の基盤づくりに手腕を発揮されました。

— 三重県の看護を引っ張っていけるのは本学だという意識を持ってほしい。

本学教職員は、元学長の思いを改めて心に刻み込みました。

心よりご冥福をお祈りいたします。



さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生の修学支援のための基金への寄附の報告とお願い～

本学では開学20周年を契機に学生の修学支援に活用するための基金を創設し、平成29年9月に同窓会や後援会等の皆さまに寄附を募ったところ、多くの皆さまからご厚志を賜っております。

この基金は、「みかん大進学支援給付金」の財源として、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、本学への進学の目的及び意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学が困難な人への入学時の給付金に充てられます。

継続的に安定した学生への支援を可能とするため、引き続き、皆さまの格別のご協力とご支援をお願い申し上げます。

◆令和元年8月末現在の状況

寄附総額 5,920,000円
寄附者数 個人 48人
法人・組織 12団体



■お知らせ■

本寄附金は、総務大臣及び文部科学大臣の承認を得て、所得税の税額控除の対象となりました。詳細は事務局までお問い合わせください。(平成31年1月～令和5年12月寄附分)

お問い合わせ

寄附に関すること:事務局企画総務課
給付金に関すること:事務局教務学生課



公立大学法人
三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘一丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大(みかんだい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。

広告

かわりあうすべての人々の
安心と満足を創造することが
わたしたちの**使命**です。

平成29年からヨナハ総合病院・ヨナハ産婦人科小児科病院の
総看護部長・総合病院は副院長を兼務させていただいております。
仕事も私生活も充実した日々を過ごせるように体制を整えています。
多職種との協働が進んでおりアットホームな病院です。
ぜひお気軽にご見学にお越しください。



看護部長 岩田 広子

見学随時
受付中

新病院移転に向けて
職員募集中

2021年竣工予定
ヨナハ丘の上病院(仮称)



医療法人 尚徳会
心あたたまる医療を
ヨナハ総合病院

〒511-0838 三重県桑名市和泉八丁目264-3
TEL.0594-23-2415(代表)

ヨナハ産婦人科
小児科病院

ヨナハ介護老人
保健施設

湯の山介護老人
保健施設

・ヨナハ在宅ケアセンター
・ヨナハ在宅ケアセンター
見ヶ丘

三重県立看護大学 地域交流センター 令和元年度第2回公開講座

三重県立看護大学 地域交流センターでは、令和元年度第2回公開講座を開催します。参加ご希望の方は、あらかじめお申し込みください。

日 時/10月26日(土)
13:10～14:40

場 所/本学講堂
講 師/佐藤圭太さん



(陸上競技選手。2016年リオデジャネイロ
パラリンピック競技大会日本代表・メダリスト)
テ - マ/夢に向かってー 最初の一步に勇気を
パラリンピックへの道ー

入 場 料/無料

問い合わせ/同センター(☎059-233-5610)